

地の地平一道程百五十年

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学音楽学部 公開日: 2021-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 典子 メールアドレス: 所属:
URL	https://kcua.repo.nii.ac.jp/records/2000274

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



報告

地の地平—道程百五十年

中 村 典 子

Regional horizon

—a road of 150 years to complementary for lacking

NAKAMURA, Noriko

0- はじめに—二つの視点 それらの交差に

1- 伝統と創造の奥、消失点より

2- 時の川辺、学舎より

3- 地の地平へ、時点と地点の交差より

4- むすびに - 大規模構造の有機的流動体一個の協創から—

0- はじめに—二つの視点より

本稿は、二つの視点より、コロナ状況下でのオンラインフェスティバル - 合同研究発表上演収録研究を描いた一対のうちの、後に書いたものである。

先に書いたものは主に、日本国内に緊急事態宣言発出となって自宅待機のコロナ状況下に、担当クラスの学生諸氏とそれまで「対面して同じ空間で話し、書き、聞いて、聴いて伝え合う」時間を、オンラインによるクラスでそういった質感に至るまでの探究を持続させることができるか、あらゆる場が実験場と化した2020年4月よりの一研究室の格闘のドキュメントで、芸資研『コンポスト』誌に寄稿した。

そして今回音楽学部紀要『ハルモニア』誌へ研究室WEBと共に寄せるのは、2020年の新型コロナウイルスへの対策から得られた様々、あるいはその産物としての新たな形態の音楽の誕生の場、についての《ドキュメント》、だけではない、日本最古の芸術大学の私たちは如何にして、まったき《全》に向かうのか、についての詳述である。それは、その行き道、すべての場で、すべての時に違った形を執る、そのような有機的な構造の、流動する《場》そのもの、メディアムとなる、その工程の一部始終への、分解能、解像度にあり、また、一刻一刻をきぎんでゆくそれぞれの個の尊重を、《地》と、《地》との地域との交差という意味であらゆる場実践され、様々に《着地》してゆく、その工程の一部始終の、とも云い得る。

時の、地上でのその《全》への分解能は、2020年11月から12月、一対の大国のひとつにくっきりと顕れた。私たちは、BLACK LIVES MATTERの事態からBLACK MOTHERを戴くに

至る。それは米国民が、アフリカの父、アジアの母出自を持つ女性を米国次期副大統領に選んだこと、である。BLACK、その反動のWHITE、そしてBLACK MOTHER、オバマ—トランプ—バイデン&カマラ・ハリスという流れである。この、人類のより《全》へと向かう道標は、著者とカマラ・ハリスは学齢が同年で、スピリチュアルなことを述べるならば、私の父の22年後の命日二日前が、カマラ・ハリス誕生の日である。

これらの営みが《伴ったもの》の顕出が、この《地の地平》の投影—プロジェクションとなる。著者が大学入学以来、卒業修了就職で長い定点観測状況にあるこの大枝杓掛、京都に投影された《伝統と創造の奥》、そのコンポジションを検証する。

1- 伝統と創造の奥、消失点より

研究室基盤の東西管絃楽12年の活動がひとめぐりする2020年、かつ8年継続中の国際音楽祭の拠点として大学構内のホール群を本拠とする開催7年目に、人間の生存共存に関わる新型コロナ状況から、国際現代音楽祭は代替的に《オンラインフェスティバル》の方式へと変貌を遂げたこととなる。新型コロナ感染症防止のための緊急事態宣言下、伝達、通信の欠乏からの《オンライン》様式が、具体的には以下のような機能を持つ《伴うもの》を継続的に変化させてゆく。

ここで国公立系五芸術大学の伝統音楽系研究拠点の設置状況を確認する。以下のように、京都市立芸術大学は、邦楽科が非設置であるが日本伝統音楽研究センターを設置している。以下、音楽学部をもつ芸術大学は、西洋管絃楽声楽に基盤においているなかでの邦楽の状況である。

	音楽学部(洋楽)	(邦楽)	大学院(洋楽)	(邦楽)	博士課程	(邦楽)
東京藝術大学(国立)	○	○	○	○	○	○
金沢美術工芸大学	<hr/>					
愛知県立芸術大学	○	設置なし	(○*)	設置なし	(○*)	設置なし
京都市立芸術大学	○	設置なし	○日本伝統音楽研究センター		○日本伝統音楽センター	
沖縄県立芸術大学	○	琉球芸能専攻	○	舞台芸術専攻	○民族音楽学研究	
				[琉球芸能]		[琉球芸能]

* 複合領域として、音楽学での日本音楽研究の他に、作曲において東西(南北)の音楽が創作され演奏されることで邦楽科非設置を補完し、大学院一元化がなされている。

この地点的属性による著者の属性[作曲]で《伴うもの》は、《箏》であった。2012年新春1月8日に京都市国際交流会館で開催した国際現代音楽祭《アジアの箏の現在》では、《箏》と西洋楽器(ベルカント唱法)のための日本各地、東アジア各地、欧米圏の作曲家への委嘱世界初演と上演により、京都とそれぞれの地との往復がはかられることとなる。ここで東西南北の伝統と創造は掛け合わされ、その奥へ奥へと歩いてゆく。しかし、それらは過去にはそのよ

うには交わらなかったもので、よって消失点として、この構図の中で無限遠点として機能する。ここでの独奏、二重奏、三重奏は将来の大規模構造（協奏する管弦楽）へと歩を進めるだろう。

この代替的《オンラインフェスティバル》としての機能を前期後期年2回開催のクラス合同研究発表のフェスティバルが常に発現させるのは、それはまたいつか来るポストコロナ後に輝きと深みを増すであろう対面（学生大学院生教職員と研究地域社会間の）コミュニケーションそのものなのである。そもそものはじまりは、研究室内本拠のアンサンブルのために当時修士課程と博士課程の大学院生であった増田真結、清水慶彦と3人ではじめた clumusica からの放射であり、clumusica とは clumsy と musica を掛け合わせた造語で清水慶彦の命名の、clumsy と musica を往復する《不器用な音楽》である。研究室で催すプログラムそれぞれおりに《伴うもの》は、《オーケストラ》《合唱》《エレクトロニクス》—また、そもそもそれらにより隠される《伝統》に他ならない。新旧といった時間的な前後の、東西、南北といった空間的に遠近の《伝統》とは、それを生きる《人》にあり、《人》を包む《地》にある。

よって《箏》は、clumusica としての準備 2007 年、設立 2008 年、起動 2009 年から現在に至るまで、常に《オーケストラ》《合唱》に共に《伴うもの》として存在し、《箏》により隠される《東アジア伝統》の楽器・唱法が《オーケストラ》と共に補完されるばかりでなく、学内の日本伝統音楽研究センター（以下伝音[でんおん]と略す）では常に《箏》[俗箏]により隠される楽箏が、《オーケストラ》によって隠される人類最古の管絃楽《雅楽》の「でんおん管絃講」によって補完され、2015 年より 16 年に特に《ウタ》から《合唱》のあわいが《伴うもの》となって《オーケストラ》と共に補完される。一方が表に出ることでもう一方の欠落がそれを補完して顕れるといった、《全》へと向かう、ひとつの時空、あるひとつの宇宙、となる。

2- 時の川辺、学舎より

現在、京都市立芸術大学には、学部と大学院、美術と音楽のそれぞれ2種と共に、以下6つのセンター附属機関がある。

日本伝統音楽研究センター 芸術資源研究センター 附属図書館 芸術資料館
ギャラリー@KCUA キャリアデザインセンター

その機構については、以下のように置いてみると実情に近いと思われる。

美術学部 大学院美術研究科（修士・博士課程）+ 音楽学部 大学院音楽研究科（修士・博士課程）
附属図書館 芸術資料館 ギャラリー@KCUA 芸術資源研究センター 日本伝統音楽研究センター
事業推進課 キャリアデザインセンター

これらを、鍋島弘治朗：対概念・関連概念の複合語併置順序に当てはめて、学生に目線を置いて、機関の属性で表してみる。(注1)

1. BEFORE-AFTER 〈(時間的) 前後の原則〉 学部→大学院 修士→博士
2. FRONT-BACK 〈(空間的) 前後の原則〉 事業推進課→ギャラリー@ KCUA
事業推進課→依頼演奏
国際担当→交流協定校(伊仏独英波諾芬加豪中台韓)
3. UP-DOWN 〈上下の原則〉 大学院→学部 博士→修士
4. LEFT-RIGHT 〈左右の原則〉 美術(1880-) →音楽(1952-)
5. VERTICAL-HORIZONTAL 〈縦横の原則〉 学部大学院×美術音楽
芸術資源研究センター 日本伝統音楽研究センター
6. IN-OUT 〈内外の原則〉 キャリアデザインセンター(在学生-外部連携) 同窓会(美術・音楽)

中村研究室は音楽学部・大学院音楽研究科にあり、上記機能を一研究室として、また一研究室よりかは、そこで活動する学生大学院生諸氏と教員がそれぞれ一研究者として、一企画者として、一作曲家として、一演奏者として、上記の縦横を内外に往還させることが機能となる。

そこで、日本最古の芸術大学の京都市立芸術大学の4つの節目、創立110年、創立120年、創立130年、創立140年を、はじめのひとつを学生、以降を教員として継続して定点観測することとなっている著者は、この稿を道程百五十年とすることとする。その理由は、百五十年というスパンが特に音楽、特に西洋音楽におけるマクロな時代区分、変化に関する視点に関わる時間であるからである。

以下は、約8年前2012年9月25日の音楽学部60周年記念座談会で音楽学部同窓会役員と卒業修了生の音楽学部教員が対談した際の再録である。著者はこの折、京都市立芸術大学の150年と音楽の150年周期的流れを京都から東アジア、欧州圏までの2012年迄の時点地点をシームレスにつないで、京都へ日本へ至る音楽の源と、京都市立芸術大学の関係を縦横に交差させて話した。そのため、全文を再録する。特に以下の表に関わる東西交差の部分を、原文に網掛けして強調してある。

という四倍周期による3重（さんじゅう）の虹は京都及び関西圏で完全に重なっています。その点においても京都芸大音楽学部の歴史的意義とは、日常ダイレクトに海外で活動・就職できる素晴らしさと共に、海外を経由した人達が京都で京都の新たな音楽表現を共に作るため使命を持って世界各地からやってくる基点であることと感じます。21世紀の始めの10年は911（ニューヨーク・北アメリカ東部）と311（東日本・アジア）という痛ましい自然と人為の犠牲のもとに始まりました。この二重のクロスへの回答が芸術の常に背負うものであることは言をまたず、この素晴らしい過去と未来の間に聖潔かつ清新に、奇跡の歴史的架橋の地・京都で生命を第1義に新たな表現を求め、ゼロからの真なる創造を誰もが協働する時代到来への通奏低音と化している。そこから、多数のノーベル賞受賞者を抱き育む京都のコアがサイエンスとアジアの交差にあり、京都芸大の今後10年間にまさにこの一点に集約されると感じ、その責任の重大さに身が引き締まる思いです。』

（注2）

3- 地の地平へ、時点と地点の交差より

この130周年のおりには、20年後150年周年の時点から音楽における150年周期を元に話していた。よって、現在の140周年に必要なのは、そこへつながる線を育て抱き続けているかという点と、そこにつながる上演研究発表・収録研究のプログラミングになっているのであるかという点が、核となるだろう。そこで、今回の140周年のコロナ禍下の2020年度前期後期のオンラインフェスティバルプログラムを、東西交差のフィルターで検証する。

前期のプログラム構成としては、欧米圏作曲家作品5作品と東アジア圏作曲家作品10作品（新作作曲作品5作品、新作管弦楽作品2作品含む）と地点的バランスが図られ、1分間新作テープ音楽4作品においても全体フェスティバルテーマのイントロダクション的性格としてバランスが図られ、演奏専攻・音楽学専攻学生達が自ら創ることにコミットメントする時間が展開されている。

また後期のプログラムの構成は、欧米圏作曲家12作品と東アジア圏作曲家作品23作品（新作作曲作品5作品、新作編曲作品1作品、新作舞踊作品1作品、新作映像作品1作品、新作管弦楽作品1作品含む）でさらなる地点的バランスが図られ、地点と時点の交差がさらに深く図られている。

2020年前期クラス合同研究発表 収録配信研究 7/23〔木祝〕-7/27〔月〕配信

オンラインフェスティバルうたがきこえる時の川辺 〔国際現代音楽祭アジアの管絃の現在〕

A〔楽曲分析〕独奏・オーケストラ作品分析研究上演

B〔作曲法〕日本民謡ピアノ作編曲とオーケストラ編曲上演 作曲作品上演

C〔音楽学演習〕オープニングエレクトロニクス（1分間テープ音楽）

D [作曲理論研究] 宮澤賢治作詞作曲作品ピアノ編曲のオーケストラ編曲上演 独奏作品分析作曲上演

C 2020 樽家千晴 [3,pf]:身近な情景 [世界初演] 山西彩恵子 [3,pf]: 登音 [世界初演]

山田周 [3,vn]:追われる夏 [世界初演] 名田卓麻 [2,cello] うた、うつわ、うつろい [世界初演]

A 1706 ゲオルグ・フリードリヒ・ヘンデル [1685-1759]: サラバンド オンラインオーケストラ

D 1762 C・W・グルック [1714-1787]: 精霊の踊り 歌劇 オルフェオとエウリディーチェより ピアノ 宮國香菜 [M1]

D 1844 フレデリック・ショパン [1810-1849]: 子守唄 変ニ長調作品 57 ピアノ 仲吉愛里 [M1]
1880 京都市立芸術大学 誕生@京都府画学校

D 1914 ジャン・シベリウス [1865-1957]: 樅の木 ピアノ 古谷華梨 [M2]

D 1926 オリヴィエ・メシアン [1908-1992]: 天上の宴 和田藍里 [M1]

D 20.7C ワン・ジャンツォン [王建中] [1933-2016]: 瀏陽河 [around 1970] ピアノ 楊開文 [M1]
京都市立芸術大学岡崎学舎期の京都市立芸術大学音楽学部長の作品より

D 1972 安倍幸明 [1911-2006]: こどものための3つのソナチネ第3番 第1楽章 ピアノ 大塚昭花 [M2]

D 1974 イサン・ユン [尹伊桑] [1917-1995]: エチュード第1番 フルート 花野美咲 [M1]

D 2020 作野朋果: メロディー ピアノ 作野朋果 [M1]

[1883 エドヴァルド・グリーグ [1843-1907]: メロディー 叙情小品集 II Op.38-3 からの創作]

京都市立芸術大学《沓掛学舎》でのクラス課題

B 2020 (-19.6C) 竹田の子守唄 [京都府民謡] Sop: 林愛理沙 [M1] Mezzo Sop: 柚木玲衣加 [M1]
Bar: 濱田貴大 [M1]

作曲理論研究・楽曲分析・作曲法オンラインオーケストラ [中村研究室]

D 2020 (-20.3C) 宮澤賢治 [1896-1933]: 星めぐりの歌 Sop: 林愛理沙 Mezzo Sop: 柚木玲衣加
Bar: 濱田貴大

作曲理論研究・楽曲分析・作曲法オンラインオーケストラ [中村研究室]

F1: 花野美咲 [M1] 田平莉子 Ob: 大上穂花 Cl: 千阪爽緒 Bn: 久保田茜 Sax: 佐藤夏美 [M1]

Hn: 江口俊世 Tp: 村田高平 Trb: 奥真美 [M1] Perc: 丹治樹 柳野伽耶

Vn: 藤田恵 [M1] 加納あゆり 笠口和実 落合真悠子 梶原千聖 須藤遙 高橋茜 森崎希実

Vla: 田中希 [M2] ヴィオラ: 清水絵理 四家絵捺 福井優希 田村紗矢香

Vc: 塚本ひらき [M1] 柏木基 森百々恵 渡辺七帆 Db: デビューリー 雪乃 村田優美

コロナ感染症防止対策: 外村雄一郎 [教員] 録音: 西村千津子 [教員]

運営・収録・編集 中村典子 [専任教員]

(注3)

2020 年後期クラス合同研究発表 収録配信研究

レコーディングデータ×フェスティバルフォト映像（新作アニメーション映像 新作舞踊舞台映像含む）

11/22 [日] 0:00-23:59 12/26 [土] 0:00-23:59 1/4 [月] 0:00-1/8 [金] 23:59 期間限定配信
独奏独唱、弦楽四重奏、木管五重奏、弦楽合奏、管楽合奏、管楽協奏、打楽器協奏、管弦楽舞台映像
1/6 [水] 18:00-21:00 1/7 [木] 12:00-13:00 1/8 [金] 12:00-13:00 時間限定配信

オンラインフェスティバル時の川辺《学舎より》伝統と創造の奥ⅠⅡⅢ

A [楽曲分析] 独奏・弦楽四重奏・木管五重奏・弦楽合奏管楽合奏・管楽協奏曲・管弦楽
作品分析研究上演

B [作曲法] [作曲法研究] 独奏・二重奏作曲作品新作上演 東洋美学による洋楽器アンサンブル作品上演

日本伝統楽器・韓国伝統楽器と洋楽器合奏作品上演 [アーカイバルユース]

C [音楽学演習] オープニングエレクトロニクス（1分間テープ音楽）

D [作曲理論研究] 独奏作品分析作曲上演 著者協奏曲オーケストラ版作編曲上演

E 教員・交流校留学生・ゲスト芸術家陣作品演奏による映像制作・収録研究

F 地域連携 [西洋古楽器] [西洋楽器]

C 2020 名田卓麻 [2]: divo [世界初演] 山田周 [3]: parallel 2020 [世界初演]

B 2020 新水美奈 [3]: ソラノタビ [世界初演] ピアノ: 新水美奈 [3]

D クリステイアン・リンドベルイ [1858-]: グレゴリオ聖歌による変奏曲 トロンボーン:
奥真美 [M1]

E 17C 古典本曲: 古伝巢籠 尺八: 寄田真見乃 [京都市芸術新人賞 (2020) 受賞]

ベートーヴェン生誕 250 年プログラム

D 1782 L.v. ベートーヴェン [1770-1824]: 《ある少女の描写》 テノール: 奥本凱哉 [M1]
ピアノ: 和田藍里 [M1]

D 1795 L.v. ベートーヴェン [1770-1824]: 《君を愛す》 テノール: 佐々木涼輔 [M2] ピアノ:
和田藍里 [M1]

D 1798-99 L.v. ベートーヴェン [1770-1824]: 《アダージョ・カンタービレ》 悲愴ソナタ II
ピアノ: 仲吉愛里 [M1]

D 1810 L.v. ベートーヴェン: 3つの歌 アルト 柚木玲衣加 [M1] ピアノ: 和田藍里 [M1]

D 19C-1808 F. リスト [1811-1886] = L.v. ベートーヴェン [1770-1824]: 交響曲第6番 V
ピアノ: 作野朋果 [M1]

A 1873 ジュゼッペ・ヴェルディ [1813-1901]: 四重奏曲 [弦楽合奏] 指揮: 井村佑羽 [2]
ensemble clumusica

- A 1876 ジャコモ・プッチーニ [1858-1924] : 交響的前奏曲 指揮 : 豊福隼人 [3] ensemble clumusica
1880 京都市立芸術大学 誕生 @ 京都府画学校
- F 1898 デイ・カブア [1865-1971] & マッツッチ [1878-1972] = 橋爪皓佐 : オー・ソレ・ミオ
帝塚山学園ギター・マンドリンクラブ 顧問 小林奈央子先生
- D 20C 陳培勛 = 呂文成 [1898-1981] = 広東音楽 : 平湖秋月 ピアノ : 楊開文 [M1]
- D 1954 池内友次郎 [1906-1991] : ピアノのためのソナチネ ピアノ : 藤井夢音 [M1]
岡崎学舎十年期
- D 1972 安倍幸明 [1911-2006] : こどものための3つのソナチネ第3番 ピアノ : 大塚昭花 [M2]
交流校フライブルグ音楽大学・交流校プレーメン芸術大学
- D 1975 ヨンギ・パクパーン [1945-] [朴琴案泳姫] : ドライザムの歌 フルート : 花野美咲 [M1]
- D 1984 中田喜直 [1923-2000] : 変奏的練習曲 ピアノ : 宮國香菜 [M1]
沓掛学舎三十年期
- A 1986 浅田美紀 [熊谷美紀] [1963-] : 木管五重奏曲
フルート : 俵啓乃 [3] オーボエ : 大上穂花 [3] クラリネット : 十河優花 [4]
ホルン : 江口俊世 [4] ファゴット : 児玉桃歌 [3]
- A 1994 ヴォルフファンゴ・ダッラ・ヴェッキア [1923-1994] : ガスタンクへの音楽
コントラファゴット 独奏 : 高島翔大 [院修了] 指揮 : 森脇涼 [1]
オーボエ : 高橋陽 [2] 野田晴佳 [2] クラリネット : 福岡裕子 [M2] 千阪爽緒 [4]
ホルン : 江口俊世 [4] 高橋里奈 [1] バスーン : 久保田茜 [4] 幸松紗季 [4]
- A 20C リオネッロ・カボダリヨ [1945-] : 3つのコラル 指揮 : 福澤佑樹 [1]
フルート : 花野美咲 [M1] 田平莉子 [4] オーボエ : 高橋陽 [2] 野田晴佳 [2]
クラリネット : 福岡裕子 [M2] 千阪爽緒 [4] ホルン : 三木柚穂 [3] 野田彩伽寧 [3]
バスーン : 久保田茜 [4] 幸松紗季 [4]
- EF 2008 カルロ・フォルリヴェジ [1971-] : 沈黙の月 箏唄 : 麻植美弥子
沓掛学舎三十年期
- BE 2013 朴実 [1944-] : 한 [Han]
ソプラノ : 村辺恵奈 [卒] オーボエ : 藤原博司 [院修了] 韓国伝統楽器 : 朴哲 韓国伝統楽器 : 朴実
沓掛学舎三十年期
- BE 2013 岡田加津子 [1962-] : Open the Gate
箏 : 福原左和子 打楽器 : 岡田加津子 映像 : 中井友路 [M2] (世界初演) フェスティバルテーマ映像
沓掛学舎三十年期
- DE 2013 中村典子 [1965-] : 伊福 inspire フルート : 森本英希 [院修了]
沓掛学舎三十年期

BE 2015 金スヒョン [1982-] : 秋香

ヴァイオリン:藤田恵[M1] ヴァイオリン:三上さくら[M2] ヴィオラ:田中希[M2] チェロ:塚本ひらき[M1]

杓掛学舎三十年期

BE 2016 伊藤慶佑 [1995-] : internodes フルート: 橋本岳人 [愛知県立芸術大学准教授]

杓掛学舎三十年期

BE 2017 酒井健治 [1977-] : ウェバリング 三味線: 本條秀慈郎

杓掛学舎三十年期 交流協定校ベルゲン大学グリーグアカデミー

BE 2018 アンヌシュ・ハンヌヴォルト: 七青山隠映

箏:横山佳世子 ソプラノ:原田菜奈 [M2] メゾソプラノ:藤居知佳子 [M2]

バリトン:廣田雅亮 [M2] バリトン:浦方郷成 [院修了]

指揮:アンヌシュ・ハンヌヴォルト [交流協定校グリーグアカデミー交換留学生]

BE 2018 アンヌシュ・ハンヌヴォルト: 蛍の聲 箏: 福原左和子

杓掛学舎三十年期

BE 2019 朴実 [1944-] : 한불이 [Hanp'uri] ソプラノ 北村柚起恵

フルート:朴優榮[院修了] フルート:後藤田裕仁子[卒] 杖鼓:朴哲 ピアノ:朴実

BE 2019 アレッシオ・フェランテ [1989-] : 無限 永遠への儀式

打楽器:宮本妥子 舞踊:小川珠絵 [舞踊版世界初演]

杓掛学舎三十年期

BE 2019 岡本伸介 [D4] : Strophes II Spirale アルト・サクソフォン: 福田彩乃 [D1]

杓掛学舎四十年期

BE 2020 中村典子: 眼天地耳 [マリンバ協奏曲] (オーケストラ版世界初演)

独奏:杓野勢津子 指揮:中村典子 ensemble clumusica

後期クラス合同研究発表メンバー

振付・舞踊:小川珠絵 打楽器独奏:宮本妥子 [石山高校音楽科・同志社女子大学・相愛大学講師]

箏・語り・唄:麻植美弥子 [福井大学講師]

サクソフォン独奏:福田彩乃 [D1]

コントラファゴット独奏:高島翔大 [院修了]

マリンバ独奏:杓野勢津子 [札幌大谷大学講師]

フルート:花野美咲 [M1] 田平莉子 [4] ピッコロ:俵啓乃 [3]

オーボエ:高橋陽 [2] 野田晴佳 [2]

クラリネット:福岡裕子 [M2] 千阪爽緒 [4] ファゴット:久保田茜 [4] 幸松沙季 [3]

ホルン:江口倭世 [4] 三木柚穂 [3] 野田彩伽寧 [3] 高橋里奈 [1]

トランペット:植田琴巳 [4] 柏原朱 [4]

トロンボーン:奥真美 [M1] 西村菜月 [4] 山中望未 [3] テューバ:川村侑太郎 [4]

打楽器：上中あさみ [教員] 丹治樹 [4] 桜井李成 [3] 柳野伽耶 [3] 川西結 [2] 桑谷かのん [2]
 永井晴二郎 [2] コイチェフイヴァイロ [1] 武曾海結 [1]

ハーブ 松村衣里 [京都市交響楽団]

ヴァイオリン：藤田恵 [M1] 加納あゆり [4] 落合真悠子 [3] 梶原千聖 [3] 須藤遙 [3] 山田周 [3]
 岩崎朱里 [4] 釜口和実 [3] 高橋茜 [3] 森崎希実 [3] 田村紗矢香 [3] 都呂須七歩 [2]

ヴィオラ：田中希 [M2] 清水絵理 [4] 四家絵捺 [3] 福井優希 [3]

チェロ：森百々恵 [4] 渡辺七帆 [4] 柏木基 [3] 名田卓麻 [2]

コントラバス：デピューリー・雪乃 [4] 村田優美 [4]

舞台：伊藤慶佑 [M3] 横田真衣 [5] 妹尾怜奈 [4] 高橋祐智 [4] 寺田大紀 [4] 森田拓夢 [4]
 岡田幸世 [1] 塚田優乃 [1]

照明：田中詩也 [2] 収録・音響 中井友路 [M3 (構想設計)] 荒木真歩 [神戸大学大学院博士課程]

音響：山口友寛 [教員] 西村千津子 [教員]

コロナ感染症対策 外村雄一郎 [教員] 打楽器関連 伊藤隆也 [元びわ湖ホール]

指揮*：豊福隼人 [3] 井村佑羽 [2] 福澤佑樹 [1] 森脇涼 [1] 中村典子 [専任教員]

オーケストラアドヴァイザー：山本毅 [専任教員] 大嶋義実 [専任教員] 下野竜也 [専任教員]

作曲：アレッシオ・フェランテ カルロ・フォルリヴェジ [シュトゥットガルト音楽演劇大学教授] 岡本伸介 [D4] リオネッロ・カボダリヨ ヴォルフファンゴ・ダッラ・ヴェッキア ジャコモ・ブッチーニ ジュゼッペ・ヴェルディ 中村典子 [専任教員]

主催：京都市立芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科作曲専攻中村研究室

(注4) *中村作品を度々上演頂いているイタリアパドヴァ音楽院教授陣の新型コロナウイルス感染防止欧州ロックダウンでの来日差控えによる代替措置

4- むすびに - 大規模構造の有機的流動体一個の協創から -

今回の新型コロナ状況に対処し、研究教育を行う一研究室の触れる範囲が、独奏から管弦楽までの企画作曲楽譜制作配送上演収録から編成編集配信までを基本的に基本的にこれらを一人で行うことで有機性を高めた個の協創として実施、約2ヶ月間ノンストップでの編成編集配信の伝達実験となった。その結果としての、研究室WEBでの前期・後期のオンラインフェスティバルの視聴数を以下に掲げる。

前期クラス合同研究発表オンラインフェスティバル限定配信視聴数

696回 (5日間限定配信)

後期クラス合同研究発表オンラインフェスティバル限定配信視聴数

2414回 (7日間限定配信)

合計 3110回 (12日間限定配信)

前期から後期にかけては、視聴数が約4倍となっていることから、ここから発信することが可能な基盤が、しっかりと準備された状態といえる。研究室 WEB の研究プロダクツのプラットフォーム構築実験から、世界と地域、地域と世界の往還の雛型を得られた、と云える。大学創立140周年としては、2014年2015年の2年連続の大学研究助成を頂いた日韓中英4カ国語翻訳展開・国際現代音楽祭継続開催を、オンラインフェスティバル今後のコロナ禍克服の一助として、今後も研究室 WEB をプラットフォームとする編集整備と段階的連携の基盤的推進、そしてそこからの飛翔としての新たな創造を、すべての世代とすべての地域とを目指して一層ゆたかにはかってゆきたい。

2020 前期オンラインフェスティバル <https://nakamura-lab96.hatenablog.com/entry/2020/07/18/072804>

2020 後期オンラインフェスティバル <https://nakamura-lab96.hatenablog.com/entry/2020/11/21/161241>

引用文献：

- (注1) 鍋島弘治朗：世界秩序（World Order）序説：類型論的アプローチ
關西大學文學論集 第56巻第1号（2006年）93～116頁
<https://ci.nii.ac.jp/naid/110006556004/>
- (注2) 京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会 会報 第55号 2012年11月10日発行
<http://shinseikai-kcua.net/info/wp-content/uploads/2014/03/No55.pdf>
音楽学部60周年記念座談会—これからの発展と将来ビジョン 2019年9月25日(火)
大学会館 京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会 真声会 京都市立芸術大学音楽学部内同窓会事務局 2012年11月29日発行
<http://www.shinseikai-kcua.net/wp-content/uploads/2012/11/Anniversary60.pdf>
- (注3) 国際現代音楽祭アジアの管絃の現在・大枝インターナショナルオルタナティブフェスティバル 2020
オンラインフェスティバルプログラム series 邂逅 VI 令和2年（2020）年度移転整備プレ事業 京都市立芸術大学創立140周年 新型コロナウイルス感染防止と克服のための 思考の施工の試行 創造の想像 想像の創造
アジアの管絃の現在 オンラインフェスティバルうたがきこえる 時の川辺
作曲理論研究 音楽学演習 i 楽曲分析 作曲法 合同研究発表
https://4d471a0e-36c2-4c68-8cc9-7f3551f6d280.filesusr.com/ugd/d52591_7f392b7b29014b209cc9d27b5209f227.pdf
- (注4) 作曲法・音楽学演習 i・楽曲分析 II a 作曲理論研究 クラス共同研究発表
京都市立芸術大学創立140周年記念《十二月の京都》プログラム

2020 12/19 20 21 22 [土・日・月・火] 京都市立芸術大学大学会館ホール・講堂収録 [無観客収録]

主催：京都市立芸術大学音楽学部・同大学院音楽研究科作曲専攻中村研究室

https://4d471a0e-36c2-4c68-8cc9-7f3551f6d280.filesusr.com/ugd/d52591_198a239a5e5c435e8235d13f935b2c2c.pdf

参考文献：

アジアの管絃の現在 2013 2014 ラウンドテーブルドキュメント

https://4d471a0e-36c2-4c68-8cc9-7f3551f6d280.filesusr.com/ugd/d52591_756344bd12964f71a799dc5ff207eb5d.pdf



作曲理論研究・楽曲分析・作曲法・音楽学演習i・作曲法研究インクラスプレゼンテーション収録 & 国際音楽祭アーカイブより
撮影・編集：荒木真歩・小林奈央子・中井友路・中村典子

